

神戸大学山岳部 2013_07 立山・劔岳 山行報告書

文章：山本(2)

参加者：CL 山本(2), SL 松尾(3), 北村(4), 榊原(3), 井部(1), 高橋(1), 松浦(1)

7/14(土)

前日 23:30 頃、神戸発。オデッセイ組と北村車組に分かれて立山へ向かう。北村車の空調が効かないため途中メンバーを入れ替える。その後立山に近づくとつれ、強い雨と風に晒され、北村のヘルメットが車内で暴れた。朝食はすき家で。井部、榊原、高橋の元気の無さが気になった。(君たちは空調の効いた車でずっと寝ていたでしょう。)

6:10 立山駅着。7:20 発のケーブルカーで美女平へ向かう。車内は人がいっぱいいて窮屈に思えたが、坂本さん曰くこれでも空いている方らしい。室堂までのバスの中では水をよく飲み呼吸に気をつけたので、体調良く高度順応できた。

天候が悪く、9:00 発か9:30 発かで迷ったが、焦らず9:30 に出発。室堂を出るやいなや台風並の風雨に晒され、時には立ち止まらなければならない程の強風で体が煽られる。いったん室堂へ引き返すか迷ったが、待った所で天候が良くなる保証はないことと、雷鳥平までは悪天候下でも行動できると考え、そのまま歩き続けた。雷鳥荘にて松尾さんの麦わら帽子(¥400)が強風で吹き飛ばされ回収不可能に。松尾さん、紐付きの物を買きましょう。

雷鳥荘あたりから雪渓が現れた。一部が凍っていて山本転倒。CL がこれではマズイと思い始める。雷鳥平へ降りきる直前でまた水を踏んでしまい、山本・北村ともに転倒。新入生の前で格好悪い姿を見せてしまったのでへこんだ。ついでにヘルメットもへこんだ。野営管理所直前で紐を跨いだところ、紐が靴に付いて来てまたコケる。(ちなみに紐は高山植物保護のためのもので、本来は避けなければいけなかった。)

雷鳥坂には予想以上に雪が残っていて、雪渓が初めての新入生はピッケル無しで歩くべきではないと思ったが、坂本さん的には行けるらしく、実際行けた。ともあれ事前の調査不足でピッケルを持って行ってなかったのは痛い。この日は劔沢を諦めてとりあえずテントを張ることに。そんなわけで時間が余ったので、アイゼン歩行の練習を雷鳥坂で行った。

夕食はすき焼きだ。山で野菜を切るのすら初めてではないだろうか、期待が高まる。始めに牛肉を全て鍋に投入したのは失敗だったが、なかなか美味しくできた。鍋が小さくて食事時間が間延びしてしまったのは反省点。そのせいでご飯とうどんが余る事態になった。

翌日の予定を話し合う。坂本組は別山一劔御前一劔岳へ、山本組は大走り経由で真砂岳ピストンをすることになった。

7/15(日)

坂本組が別山乗越に着く予定の5時に無線交信をする予定だったので4:50 頃に無線の電源を付けたが、実際にはもっと早く到着していたようで、無線交信ができなかった。これからは余裕を持って無線をオープンにすべきだろう。

6:37 出発。大走りには雪渓が残っていたが、昨日の様子から行けると判断。しばらくは

順調に進むが、途中からルートファインディングが難しくなり、現在地が特定できないことに加え、天候が悪くなりそうだったので引き返す。この時ちょうど坂本組と無線交信しており、お互いに雷鳥平まで引き返すことを確認した。途中で急な雪渓がありピッケル無しで下るのは怖かった。ここでもピッケルを持って来なかった事を激しく後悔した。

8:40 テント着。とりあえず余った飯でチャーハンを作ったり、ゼリーやプリンを作ったりして暇を潰す。コーヒーをドリップしていると高橋さんのお湯をかけてしまった。本当に申し訳ない。井部はなんの脈絡もなくコーヒーの粉をこぼした。こんな事があってもテント内でのコーヒードリップ禁止は勘弁してほしい。そうこうしている間に、今山行初めての青空が姿を見せた。見上げる角度によって青色の濃淡が異なって美しい。今回のような大雨の中で山を歩いたのは初めてだったので、改めて晴れの日の登山の心地よさを感じた。時折見える青空のもと、外で服や靴を乾かしながらまったりしていると再び雨が降ってきた。大人しくテントに撤収し、しばらくして料理を作り始める。今夜はピラフ。味付けを事前に決めていなかったのは反省点であろう。

明日の予定を話し合う。午前中に強い雨が降る予報なので、朝起きたら雨が収まるのを待ってから室堂へ行くという方針になった。というのも、三山縦走中に雨が降ったらエスケープに時間がかかるためである。一応、アタックザックの準備をして就寝。

7/16(月)

昨夜 11 時頃から朝方まで、台風のようなとんでもなく強い風雨に襲われた。テントが壊れるのではないかと思うほど揺れる。ペグがなかったらかなり不安定だったと思う。しかし流石はエスペース、外からの濡れは一切なかった。エアライズは言うまでもないです。

朝食はパスタだったが、水気がないとなかなか喉を通らない。やはり棒ラーメンが優秀か。テントから出てみると雨は降っていない。本来午前中に降る予定だった雨が深夜に降り尽くしたのではと思う。これなら三山に行けると思ったが、無理はしないほうがいだろう。

帰り道、陽が射す。あれは雄山。僕らは下山することにした。

◇反省点

- ・山本コケすぎ、頼りない。
- ・メモ紙が濡れて意味をなさなかった。
- ・ピッケルを持って行くべきだった。
- ・山本、雪渓歩きが下手くそ。状態があんまり見られていない。
- ・事前の調査が足りない←ヤマケイとヤマレコは一応見てたんですが、どうなのでしょう。
- ・新入生、靴をビニールに包んでいない←どれくらい効果があるものですかね。

今山行は当初想定していた状況からかなり逸脱していた。今後は代替案を用意しておくのもありかもしれない。ともあれ、皆無事に下山できて良かったです。新入生、そして長い距離を運転してくれた坂本さん、北村さん、松尾さん、松村、皆さんお疲れ様でした。